

NRIサイバーパテント株式会社

8月30日（水） 9:20-10:50 会場C（5階）

「知の好循環」のためのパラダイムシフト～所有から利用へ～

「日本再興戦略2016」において、“2025年度までに大学に対する企業の投資額を現在の3倍にする”という政府目標が設定されました。産学連携のさらなる強化を達成すべく、「知の好循環」を生むための施策として、①知的財産の活用に向けたマネジメント強化、②リスクマネジメント強化の2つが大学に求められています。

しかしながら、公的資金の減少により、新たな予算の確保や管理体制の整備に大学が投資しづらい状況を鑑みる必要があります。

本セッションでは、「知の好循環」の事例紹介と、大学におけるシェアリングサービスのあり方についてご紹介いたします。

まずは、NRIサイバーパテントが、名古屋大学と取り組んできた知的財産の活用に向けた取り組みによって得られた知見をご報告いたします。

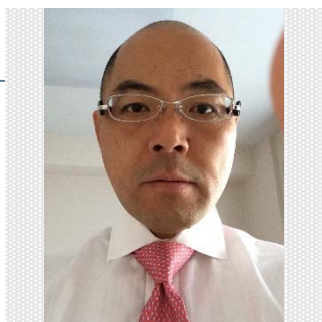
次に、名古屋大学の宮林様から、リスクマネジメントの強化についての取り組みをご紹介します。名古屋大学は、文部科学省の「産学連携リスクマネジメントモデル事業」の採択大学として、先進的なベストプラクティス事例の普及活動を行っています。

さらに、大学におけるシェアリングサービスの利活用を提唱している大学支援機構の佐野様から、アカデミックプラットフォームについてご紹介いただきます。アカデミックプラットフォームにより、投資を抑制し、経常経費も節減しながら、マネジメント強化を実現することが可能です。

セッション後半は、効果的・効率的な知的財産マネジメント、産学連携リスクマネジメント、大学におけるシェアリングサービスについて、講演者および会場の参加者の間で議論していきたいと思っております。

大学の根幹である「知の好循環」を生むための施策を支援するソリューションのご紹介など盛り込んでおりますので、産学連携に携わる皆様はぜひご来場ください。

オーガナイザー



桐生 健一：NRIサイバーパテント株式会社
IPシステム事業推進室 室長

1992年野村総合研究所に入社。企業システムの導入、セキュリティインシデント対応、内部統制対応支援のプロジェクトマネジメント、PMO支援等に従事。

2013年よりNRIサイバーパテントにて知的財産に関わる事業をマネージャーとして担当。現在、大学側の視点にたって、産学連携の強化に貢献するための事業の企画・立上げを推進中。工学研究科修士（応用物理学専攻）。

講演者


宮林 毅：名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部
リサーチ・アドミニストレーター

情報機器関連企業の研究開発センター・中央研究所に30年間在籍しました。半導体プロセス技術、電池技術、電子機器、磁気記録装置、医療機器などの研究テーマを手がけ、事業企画・商品化も経験いたしました。

URAでは、これまでの経験を活かし、研究者一人一人の研究フィールドを知り、技術流出防止マネジメントのための、実効性のある効率的な輸出管理や営業秘密管理の支援戦略を立案していきたいと考えております。


佐野 正孝：一般社団法人大学支援機構 理事長

徳島県庁において、財政課長、政策企画総局長、産業振興機構副理事長(中小企業経営支援)などを務めました。徳島大学においては、平成24～25年度に理事・副学長として地域連携、広報、情報化、防災を担当しました。現在、大学支援機構で全国の大学が様々なシステムを共有してシェアリングエコミーが発揮できる仕組みをクラウドファンディングを始めとして推進・検討中です。


田嶋 龍太郎：NRIサイバーパテント株式会社 営業企画部 部長

NRIサイバーパテントにおいて、知的財産情報サービス「NRIサイバーパテントデスク2」や知的財産管理システム「TOPAM NV」、技術・知財マクロ調査「TRUE TELLERパテントポートフォリオ」等、知的財産に関するサービス・システムの営業・企画を統括している。

AIPE認定知的財産アナリスト。